

令和５年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

豊かな心と健やかな体で、学問・スポーツ・芸術に打ち込み、志を高く、世界を見つめる人間を育てる。

(2) 教育方針

- ア 自主自律の精神を育成し、自ら学習する態度を培う。
- イ 心身を鍛練し、責任ある態度と自他の生命を尊ぶ健全な人格形成をめざす。
- ウ 個性を伸長し、自然と芸術を愛する心を養い、豊かな感性を育てる。
- エ 外国語の習得と、積極的な国際交流を通し、国際人としての基礎を培う。
- オ 相互敬愛の念を持ち、社会に奉仕する心を育てる。

2 学校の特徴

本校は、昭和２年４月に伏木町立伏木商業学校として創設され、今年で創立９６周年を迎える。眼下に国際貿易港・伏木富山港をのぞむ立地条件を生かして、長年、商業科、貿易科、普通科の教育の中で国際理解教育を推進してきた。平成１７年４月の学科改編により、それまでの普通科４学級にかわって国際交流科３学級が設置され、国際理解教育を中核とする専門学科の単科高校として新たなスタートをきり、今年で１８周年を迎える。

国際交流科は、国際化社会の中でたくましく生きていくために必要な基礎・基本の学力を培い、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。普通教科の他に、国際理解に関する専門教科、また、外国語では、英語のほかに第２外国語として中国語・韓国語・ロシア語のいずれかを選択して学んでいる。また、アメリカ、中国、韓国、ロシアの４か国それぞれに友好校をもち、中国、韓国、ロシアの３か国とは毎年、相互交流を行っている。

生徒は第２学年の３月までにいずれかの国の友好校へ語学研修に行き、ホームステイを体験しながら、実践的な語学力を高めるとともに、異文化の理解を通して自己理解を深めている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

本校は県下唯一の国際交流科単独校として、コミュニケーション能力の向上やグローバルな視野を育成しているが、この３年間はコロナ禍等により本校の国際理解教育の中核である海外研修が実施できず、その代わりとしてオンライン交流や国内研修旅行などの工夫をしてきた。今年度は、オンライン交流に加え、友好校への海外研修（１２月韓国・中国、３月米国）の実施を予定し、現地での体験交流プログラムを充実させ、本校の魅力を積極的に外部へ発信していきたい。

また、生徒は素直で社会貢献意識が高い反面、自分に対する自信や満足度がやや希薄で、活動に消極的な面も見られる。伏木地区の歴史・文化を教育資源と捉え、地域の清掃活動や行事に対して協力参加を引き続き促し、地域貢献を通して生徒の主体性・積極性を育みたい。

(2) 課題

- ・学習活動では、生徒の主体的で対話的で深い学びの実現に向け、指導方法の改善を図り、学習の意義や充実感を教えるとともに、進路目標の実現を目指した学習習慣の定着を図ることが必要である。

- ・本校の特色であるSETプログラム（毎朝５分間の英語放送）の学習と、第２外国語の日常的な会話ができる語学力の習得では、特別講師と連携して興味関心を引き出し、具体的な達成目標を明確にした指導が必要である。

- ・友好校との相互交流は、国際理解を単に深めるだけでなく、自らの生き方やあり方を考え、新たな価値観を得る貴重な機会となっており、学習の充実感と自信につながっている。そのためにコロナ禍や不安定な国際情勢の中でも、国際交流の進め方で新たな学習プログラムの開発や工夫をすることでグローバルな視点で学習を深める手段を企てていかなければならない。

- ・学校生活では、時間を守る、服装等の規則を守るなどの基本的な生活習慣を確立する指導を粘り強くする必要がある。また、個別的な支援を必要とする生徒や心に悩みを持つ生徒を早期に把握し、対応するためにSC・SSWや関係機関との連携が必要である。

- ・特別活動では、生徒会活動や部活動を通して、心身の調和のとれた人格の育成を目指すとともに、読書等を通して思索する態度、自ら考えて実践する能力を育む必要がある。